



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴鳥イ言

力と責任

生徒指導課 富岡 剛

With great power comes great responsibility. とても古くからある格言であり、フランス革命やセオドア・ルーズベルトの演説など、様々な時代や場面で引用されてきた言葉です。最近ではマーベルの「スパイダーマン」の中でもストーリーの重要な場面が使われ、多くの人に認知されました。私はこの言葉がとても好きで、心に刻んでおくべき言葉として大切にしています。

Great power「大いなる力」とは、様々なものに例えられます。政治的権力、兵器、原子力、身近なところでは、車やスマートフォンといったところでしよう。人間は、知識の獲得と科学技術の進歩により、様々な大いなる力を発明し、発展してきました。そして近年では、人間の叡智を結集させ、今までにない革新的な技術により生み出された生成AIが、その最たる例と言えます。

OpenAIが開発したChatGPTに代表される生成AIは、誰でも使用可能であり、高いレベルで文章作成、翻訳、企画書の作成、プログラミングのみならず、小説や歌や絵画などの芸術的な創作活動まで行ってくれるようになりまし。生成AIを利用することで、作業時間や労力の大幅な減少と、我々のクリエイティブな分野の拡大、そして障害者や高齢者の支援や医療・創薬の発展など、今後人類に多大な恩恵をもたらしてくれることでしょう。

しかし一方で、著名人の画像や動画音声を勝手に作り出し、偽情報をインターネット上に拡散したり、倫理的・道徳的に問題のあるものを作成したりすることが、実際起こっています。また、私たちが日常利用しているSNSなどにも、心理学を利用したアルゴリズムが組み込まれている場合があり、特に前頭葉の未発達な10代は脳が刺激を受けやすく、精

神に介入される可能性も否定できません。急激なAIの進化に世界では、安全性や倫理性、プライバシーやセキュリティの問題に懸念を抱く人々も出ています。学術雑誌「Science」は論文の執筆をAIで行うことを禁止しました。AIはAI法を成立させ、犯罪を行う可能性の予測などでの使用禁止や、AIで作成した音声などを「AIによるもの」と明示すること、違反企業に対して制裁金を科すことなどを議決しました。そしてOpenAIの共同設立者でもあるイーロン・マスクや、Appleの創業者スティーブ・ウォズニアクや、画像生成AI企業Stability AIのエマード・モスタークなどAI開発の最先端の人々は、一定期間の開発を停止させる呼びかけをしました。生成AIの進化が、社会に及ぼす影響を十分把握しきれていない状態での開発は、大きなリスクがあると判断できるからです。「大いなる力」には、Great responsibility「大いなる責任」が宿るのです。「大いなる力」には、Great responsibility「大いなる責任」が宿るのです。

さてAIが人間の知能を超える、技術的特異点(Singularity)は、はたしてやってくるのでしょうか。生成AIは、人間の脳の神経回路であるニューラルネットワークの仕組みを利用し、Google社の開発した自己学習機構(Transformer)とコンピュータの自己学習機能により、言語処理や画像処理を飛躍的に向上させました。すでにAIは、アメリカの司法試験や日本の医師国家試験を高得点で合格するレベルにまで達しています。知識や認知機能が、やがて我々人間を凌駕していくことは、想像に難くありません。

そしてAIが意識を持つことは、可能なのでしょうか。古代より哲学者や科学者たちを悩ましてきた人間の意識の部分は、研究が進んできたものの未解明であり、AIが生命と同様の感情や欲求を獲得するには、多くの課題があるようです。心を持つ機械は、そう簡単には作れなさそうですね。もしかしたら、AI

がそれを解明してくれるかもしれません。近未来において間違いないのは、私たちの仕事は、やがてAIが担っていくこととです。AIに創造的な活動を任せるべきか。AIに重要な判断や生命に関わる決定をゆだねてよいのか。AIにできないもので、人間にしかない能力とは何なのか。といったことを突き詰めて考えていかないと、我々は労働を失い、そして創造という文化までも失いかねません。人間の幸福のためにAIと共存していくには、これからの未来を、生命や人間の本質を通して深く考え、今私たちがどこへ進むべきかを、真剣に議論することが重要であると思います。

がそれを解明してくれるかもしれません。近未来において間違いないのは、私たちの仕事は、やがてAIが担っていくこととです。AIに創造的な活動を任せるべきか。AIに重要な判断や生命に関わる決定をゆだねてよいのか。AIにできないもので、人間にしかない能力とは何なのか。といったことを突き詰めて考えていかないと、我々は労働を失い、そして創造という文化までも失いかねません。人間の幸福のためにAIと共存していくには、これからの未来を、生命や人間の本質を通して深く考え、今私たちがどこへ進むべきかを、真剣に議論することが重要であると思います。

5月15日(水)7時間に前期生徒会長選挙及び生徒総会が行われました。生徒会長選挙では、二年生の楠元悠斗さんと加治佐瑞希さんが熱い演説を行いました。生徒総会では、第3号議案の「週番活動を見直そう」をテーマに、全校生徒が真剣に議論を交わしました。上級生の意見が飛び交う中、1年生も積極的に挙手・発言をし、活発に意見交換をする姿が見られました。



一日遠足が行われました

4月26日(金)、肌寒い小雨の中、春の一日遠足が実施されました。往復のバス車内でも学級ごとにさまざまなレクリエーションが行われ、親睦を深める様子が見られました。1年生は特攻平和会館と知覧武家屋敷地区を見学した後、平和公園で大綱引き大会が開催され、鶴丸生としてより強く一致団結することができました。2年生は雨天のため、開閉総合体育館でのレクリエーションとなりました。球技等で盛り上がり、学級や学年のまとまりもさらに強くなったのではないのでしょうか。3年生は爽やかな汗を流しながら千貫平登山を行い、頂上で受験に向けて学年の結束を誓う決意表明を行いました。



前期生徒総会・立会演説会

5月15日(水)7時間に前期生徒会長選挙及び生徒総会が行われました。生徒会長選挙では、二年生の楠元悠斗さんと加治佐瑞希さんが熱い演説を行いました。生徒総会では、第3号議案の「週番活動を見直そう」をテーマに、全校生徒が真剣に議論を交わしました。上級生の意見が飛び交う中、1年生も積極的に挙手・発言をし、活発に意見交換をする姿が見られました。



2・3年生集団読書

5月20日(月)、5月27日(月)7時間に、3年生・2年生の集団読書がそれぞれ実施されました。今回の課題図書は、2年生が小川糸作『ライオンのおやつ』、3年生が三島由紀夫作『金閣寺』でした。両学年ともに、ホームルーム委員を中心に議論の柱を立て、準備したワークシートやスライドを用いながら、クラス一丸となって作品について積極的な意見交換を行いました。1年生のホームルーム委員は、6月の集団読書に向け、2・3年生の様子を熱心に見学していました。

文献によると、本校の集団読書が現在の形(前半・国語科、後半・その他の教科)になったのは昭和48年頃であり、その数年前からすでに集団読書は行われていたという記述があるので、50年以上続いている歴史ある活動であることがわかります。また、集団読書のねらいについては、「ホームルーム委員が、学級の生徒の感想文をもとに問題点を焦点化し、企画・運営、司会をして討議を進めていくこと」や「自分の考えをもったり他者の意見を聞いたりして思索を深め、高校生としての自分のあり方、生き方を考えること」と書いてあります。

6・7月の行事予定表 (Calendar of school events for June and July)

↑発行時の予定です。変更にご注意ください。

生徒自らが主体的に取り組み、自他共に認め合う姿は、鶴丸の伝統であると感じます。鶴丸高校の図書館「悠学館」には、「一鶴文庫」「中原文庫」「山元文庫」の三つの文庫があります。寄贈された書籍や、卒業生の執筆した書籍が並びます。ぜひ多くの鶴丸生に本を手にとってもらいたいと思います。この集団読書を機に、読書を通して新たな世界を楽しんでみてはいかがでしょうか。